

台風19号への対応で感じたこと ～過去に学び、未来を担う市田っ子になるために～

市田小学校長 山田 明

朝夕の冷え込みもすすみ、学校の周りでは稲刈りが終わり、季節の移りかわりを感じる今日この頃です。

さて、10月の12日に関東地方を直撃した台風19号では、幸いにも荒川の氾濫も寸前で免れ、市田小の近辺では大きな被害を出すことなく、何よりでした。避難所となった市田小では、昼頃から地域の方々が続々と避難され、総計457名が心配な一夜を過ごされました。避難した中には、家族と共に避難した多くの市田小の子供たちもいました。

これほど多くの方が市田小に避難されたのは、過去に例がなかったことかと思いますが、避難された方々のご協力により、大きな混乱もなく、台風の通過を見守ることが出来たことは、本当に助かりました。ご協力に感謝いたします。

さて、今回の避難については、地域の方々が過去に川の氾濫で大きな被害に遭われた経験から、「早め早めの対応が必要である」との判断があったと伺っています。「災害は忘れたころにやってくる」とも言われますが、過去を忘れず、過去に学ぶことの大切さを痛感しました。

過去の出来事は、東日本大震災しかり、どうしても風化し、忘れ去られてしまいます。これからのやってくる社会は、今まで経験したことがない高齢化と少子化、IT化が進み、世界との関わりも格段に広がり、深まってきます。社会が大きく変化する中でも、過去の出来事を忘れての未来はありません。

これからの社会を担う市田っ子には、過去のことを学んだ上で、これから必要なことを学んでほしいと思います。市田小学校では、くまがやラグビー・オリパラプロジェクト（くまがやROP）の学習を通じて、過去に学び、過去から学ぶ教育活動を推進していきます。

生活目標について

11月学校生活目標

・先生の話を友だちの発表を
静かに聞こう。（声の大きさ0）
・まっすぐ手を上げ、しっかりと
発表しよう。（声の大きさ3）

学習のきまりを
守ろう。



11月は「学習のきまり」について考えます

今月の目標は、「学習のきまりを守ろう」です。11月はいろいろなことをじっくりするのにとても良い季節です。学習の効率を上げるのにもちょうど良い時期と言われています。

「先生の話や友だちの発表を静かに聞こう」ということでは声の大きさ0を「まっすぐ手を上げ、しっかりと発表しよう」ということでは、声の大きさ3を意識して学習に取り組んでももらいたいと思います。

私たちの周りには、いろいろな約束やきまりがあります。なぜ、約束やきまりがあるのでしょうか。一人で暮らしているのなら、約束もきまりも必要ありません。でも、何人かが集まり一緒に暮らし始めると、約束やきまりが必要になってきます。一人なら必要ない約束やきまりが、どうして、みんなで暮らすと必要になるのでしょうか。子供たちが快適に学校生活を送るため、様々なきまり（ルール）を確認し、元気な市田っ子を育ていきたいと考えています。